

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200574		
法人名	医療法人社団拓己会		
事業所名	多機能ホームながつる グループホーム (えがお)		
所在地	静岡県浜松市東区長鶴町249		
自己評価作成日	平成29年2月4日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2297200574-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設4年目の本年は、グループホームにおける様々な認知症の方の特性理解と、それに応じた関わり方を検討できるように努めてきました。前年同様に、従来の生活様式や個人の価値観・経験を尊重し、その中から継続して行えることを見出し、支援に繋げていくことを大切にしています。施設行事においては、外出機会の確保のため、外出レクリエーション機会を増やしています。同時に例年行なう年中行事も大切に、利用者と職員が共同して準備から実践までの取り組みができるよう努めています。
当施設は経営母体が医療機関であるため、利用者様の健康状態維持や変化時の対応がタイムリーに行える体制もあり、最期まで安心した環境で生活頂ける特性も持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長鶴町自治会では会長の尽力で閲覧板に施設広報を挟んだり、また施設担当2名を任命くださって運営推進会議には3名が出席しているほどで、地域と一体となった活動に秀でています。好天には散歩にでて、コンビニエンスストアでの買い物は日常として、職員が本部へ書類を届ける際にも誘い、「外出機会、戸外での徒歩を増やす」ことを念頭に置いた支援が根付いています。また「秋の味覚レクリエーション」として秋刀魚を焼いたり、暑くて戸外にできる機会が減る夏には「夜の手持ち花火会」を開いたり、法人では150余の人が集った「お茶会」が催されたりと、「季節を感じてもらいたい」との想いが伝わる企画行事が豊富です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に、法人理念及び自施設理念についての説明機会がある。	法人では年1回、全体会で意識づけを図っています。またプリセプターや3ヶ月目標(個人)などの制度が敷かれ、事業所としては今できてないことを抽出してを目標を立てたうえで振り返りの場も設定され、実践を確かにする仕組みがあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事参加を得たり、施設行事にも協力を得ている。また、近隣ボランティアの受け入れを行なっている。	長鶴町自治会では会長の尽力で回覧板に施設広報を挟んだり、施設担当2名を任命くださり、現在運営推進会議には3名が出席しています。民謡、太鼓といったボランティア訪問も絶え間なくあり、家族からも「楽器演奏を～」との申し入れやウエス寄附もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の場や推進会議を用いて、施設内での認知症を持つ利用者の暮らしぶりを知ってもらったり、介護方法や資源の相談にも気軽に応じられるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では日々の活動報告を写真等を用いて紹介したり、行事参加の場を確保している。また、施設として目指したいこと等を議題として挙げ、それらに対する意見を受けている。	自治会長の口利きで東消防署長、消防士長、消防団東区支団長が加わってくださった会議では、「河川氾濫で避難勧告がしやすい地域だから～」「ハザードマップは～」等防災に係る事柄に特化しての協議があり、内容の濃い議事録を確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議を利用して、事業所の実情伝達や助言をうける場をもっている。必要に応じて、管轄の区役所の介護保険課に相談する機会ももっている。	地域包括支援センター職員は運営推進会議に毎回足を運んでくださるほか、困難事例については双方協力しての取組みがあります。またハザードマップの相談にも市役所に出向き、地域振興課に家族分まで冊子を分けてもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や自己の振り返り機会の確保、拘束に当たる可能性が考えられるケースについては、職場会議にかけ、代替方法の検討も行っている。玄関施錠は施設の立地状況もあり行っているが、要望に応じて職員と戸外に出られる状況確保はなされている。	不審者対応と目の前の交通量を考慮して施錠もやむなしとの時間帯もありますが、基本はオープンとし職員が付添って戸外へ出ています。職場会議を通じて「身体拘束とは何ぞや」を議題とし、グレーゾーンであっても記録とケース検討をおこなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会を主に学習機会をもち、その上で日常業務においての対応の妥当性を検討している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な支援事業や後見人制度に対しての勉強会実施はできていない。ただし、同一施設内小規模における検討を要す事例を通じた情報は得られる状況に在る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時の契約内容については、契約書及び重要事項説明書の書面を用いて十分説明をし、了承を得ている。契約後の疑問点についても、随時説明をし、理解が得られる状況を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時にご意見の受け付けや対応体制があることを十分に説明している。その上で、家族会実施による意見交換機会の確保や、ご意見箱を設置し、要望・質問にタイムリーに対応するように努めている。	「受持」と呼ぶ担当者が介護計画書や家族との情報交換、誕生日には手作りプレゼントを用意したりと、密な関係をつくっています。特に受持の手紙と生活風景が映しだされた写真が毎月の請求書に同封されていることは、家族の安心につながっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議の定期実施にて意見交換や、課題解決に対する検討機会を設けている。	受持(居室担当)と係、プリセプターなど制度が充実しています。さらに職員会議では意見がでにくい人の意欲醸成をねらいとして、司会進行を持ち回りするようにしており、意見を言わないと進行役が困ることを実感して少しずつ変容し、効果が目に見えて出ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者による個人面接を実施している。また、個人の可能な就労条件に応じた雇用体制をとっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月に1度の勉強会を実施している。また上半期より、介護経験年数が浅い職員に対しての勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の施設間交流は確保されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の介入段階において、不安が最小限にできるよう、サービス導入前に基本情報を収集し、生活上のニーズ把握に努めている。得られた情報は、職員間で事前に周知出来るよう準備している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に、ご家族の抱える介護上の問題や不安を確認し、その緩和や解決が出来るような支援内容検討を行うように努め、必要時に相談しやすい関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階において、ご本人やご家族が今、何を必要としているのかの把握に努めている。また、ご本人の状況に見合った支援方法を随時検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持つ力の活用をし、日常生活場面において「できること」を共に行なうよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者との面会や可能な範囲での家族との外出支援や行事参加を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の、友人や近隣の人などの面会機会を推奨している。	家族だけでなく知人が外出に誘ってくださったり、敬老の祝いが届いたり個人につきあいが続くほか、長鶴町婦人会が毎年敬老会の送迎まで配慮くださるとの厚意に包まれての関係もあります。面会時間の定めは特段なく、夜不穏になる症状を案じて夜間訪れる家族もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、ユニット内の関係構築がなされるよう、必要な場面に職員が介入したり、レクリエーションの場を用いて、周囲への関心が低下しないような関わりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、ご家族に連絡をし、以降の相談にのったり、必要時相談に応じられることを伝え、施設来所できる関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時及び以降の経過に添って生じるニーズ把握に努めている。	管理者は発症前の住居に伺って「もともとの暮らしぶりを知る」ことを大切にしています。「出たいだろうな」「自由にしていただろうな」との想いを寄せ、職員間で「業務を見直したらもっと何かできるかも…」との協議もおこなわれ、職員意識の高さが覗えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にご家族から、今に至るまでの暮らし方や対人関係等を情報収集し、なぜ入居に至ったのかという背景把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化し得る心身の状態を常に意識し、今の生活状態の把握と、定期的なアセスメントを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なサービス担当者会議の実施や、状態変化時の面談を実施し、ケアプランに反映させている。必要に応じて、職場会議の場で事例検討を行っている。	カンファレンスの時間が十分にとれないことから、「事前提起をおこなったうえで話し合いに向かえば内容が濃くなるのでは」との考えを以て運営方法を替えるなど、向上への姿勢がある点に信頼が湧きます。またサービス担当者会議に家族の同席もあり、基本に忠実です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過や観察内容、関わりで得た反応は個別記録として残されている。記録を通じた情報共有と得られた情報をもとにケア検討の材料とすることはできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経済状況も含め、必要に応じて利用サービスの見直しや検討をしている。施設内生活方法についての枠は作らないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会機会等を得て、住み慣れた地域との接点の場を継続出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診が受けられる体制がある。また、ご本人の必要に応じた医療や定期検診受診もなされている。	18名其々月2回訪問診療があることから、日曜日と祝日以外ほぼ皆勤くださる協力医が何かあれば24時間往診くださるほか、管理者も看護師との心強さがあります。歯科往診も依頼できますが、専門医での通院が発生した場合は職員が付添っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、健康チェックが行われ、随時、職場内看護師に相談している。同時にかかりつけ医の看護師とも情報共有をし、医療と連携した対応が受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の連携室との関係をもっている。入院者があれば、病院関係者との連携をとることは可能な状態であるが、この一年は入院対象者はいなかった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り支援の前段階から、ご家族と急変時や終末期支援の意向確認をし、面談の場を設けている。その上で、看取り期のケアプラン作成をし、家族同意を得た上で実践している。	家族の気持ちは動きやすいため、医師と家族との面談も都度おこない、家族の「こうしたい」にえています。当初は急変を怖がっていた職員も看護師である管理者の説明や経験談に緩和され、本年も4名を穏やかに見送ることができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や職場会議を用いて、急変時や事故対応の方法を伝達している。また、関連したマニュアル作成をし、個々が必要に応じて自身の知識習得や再確認できる状態にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の施設内防災訓練を実施している。内容は、日中や夜間の設定などをし、様々な形を想定できるよう工夫をしている。また、推進会議でその報告をし、地域消防との協力体制も確認している。	防災業者も毎回立ち合い、法人管轄のリスク委員も配されてはいますが、これまで実行が遅れていた「夜間想定」が叶うとともに、「職員介助を以て利用者全員戸外に出ること」も出来、取組みが大きく前進しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の特性に合わせた対応の仕方を考え、集団生活の中でもプライバシーに配慮し、接するようにしている。	年1回法人主宰で接遇研修があり、苦情・接遇委員会のチェック日も設けられ、是正の仕組みがあります。夜勤者が一人でトイレ介助しているとき、心配となる症状の人がほかにいると扉を開けたままにしてしまうことが以前はありましたが、職員間で注意しあって改善されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々に介護担当が配置され、担当を中心に個別ニーズの吸い上げ・把握をするよう努めている。本人希望に対しては、応じられる範囲内は限られてしまっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、生活方法や過ごし方の制限をもたず、本人のペースでの生活やレク等への参加を促すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力を得ながら、その人らしさや長年のこだわりを継続できる身だしなみを整えられる様に支援している。衣類選択介入時は、ご本人の意向を聞きながら、一緒に行うように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しや、食後の片付けにおいて利用者と共に行なう機会を持っている。	男性職員も手慣れた動きをしていて、春の香りがする食材を使って手作りの献立が調理されています。また骨折してベッドが主になっている利用者も食事の時間になれば職員二人がかりで起こして、同じテーブルを囲むことができしています。	食事の開始が自由のため、遠慮がちな人は始まるタイミングがわからない様子がありましたので、配膳の際には「〇〇さん、どうぞ」と声をかけてくださるとなおります。また食材費については一度見直すことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による食事内容の検討や、摂食状況による食事量検討を行っている。また、その人の状態に応じ、必要な食事や水分の促し方を検討しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の自立度に応じた口腔ケアへの介入方法を検討し、その適正を確認しながら口腔内清潔が保たれるよう支援している。また、必要に応じて歯科往診による指導を受け、それを意識した支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の自立度に応じ、その中でより自然な排泄方法で支援できるよう心掛けている。排泄のパターン把握により失敗頻度を減らしたり、不快感の少ないおむつ使用方法で対応をしている。	パットの性能が高ければいいではなく「気持ちの良さ」を考え、排尿パターンを掴んで促し、車いすであっても紙パンツと声がけでを繰り返し、「定時誘導で無理強いするようなことはせず」「出来るだけトイレで」が続くよう努めており、布パンツの利用者の中には99歳の人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人の排便パターンや習慣を把握し、活動量や水分摂取量を把握と維持に努め、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を自由に選択することは難しい。ただし、状態に応じ入浴の日を替えて対応することは出来ている。	脱衣スペースの棚には個々の籠が整然と置かれ、中には好みのシャンプーや洗身タオルが入り、個別対応があることが見て取れます。週2日を清潔の目安とし、重度化となった場合はシャワー浴に切り替えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と休息バランスを個々に把握し、その人ごとのパターンを保ち、就寝時間も個々に対応している。安心して休める居室環境調整と就寝準備介入を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導を受けながら、薬剤情報を確認のもと、確実な服薬支援や、投薬による変化の観察ができる体制をつくっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付けや洗濯物をたたむ等、生活上における行為参加を促しているが、実際に可能な対象が半数ほどに減っている。個別レク実施は困難なため、全体の反応をみながら楽しめるレクを実施できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年に数回、公園への外出や外食機会を確保している。協力が得られれば、家族との外出機会を確保している。	週2回の買い出しにドライブを兼ねて同乗することは長年続けている外出支援です。レクリエーション委員会を中心に各職員が持ち回りで企画するとのチャレンジから「町内での初詣」「ショッピングセンターでのB級グルメ」といったプチ外出が飛躍的に増加しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に小遣いは職員がお預かりしているが、希望に応じて出金し、使用できる体制をとっている。また、その出納は記帳し、ご家族に毎月報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信においての制限はしていない。希望があれば電話の介助をしたり、個人で携帯電話の使用も可能としている。手紙のやりとりも、必要な準備を手伝い、郵送物は必ず本人のもとで開封している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃計画に基づき、環境整備を実施している。気候に応じた空調管理をし、生活空間が快適に保たれるよう努めている。また、共有空間には、その季節を感じられる作品を飾りを作成し、掲示している。	居室掃除、スーツ交換(週1回)、次亜塩素水を含んだフロアのモップがけ(1日2回)、手すりとドアノブはアルコールで拭き、トイレ掃除が毎日繰り返され、冷蔵庫月曜日、IHと換気扇火曜日と掃除日が定まり、居室のエアコンのフィルタ掃除(年2回)などは感染対策委員と受持でおこなっています。	季節の作品掲示はありますが、メリハリがあるとのおいしいと思います。例. 掲示板で注目度を集める、写真などのギャラリーコーナーをつくる
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、その人の席を設けると同時に共有のソファスペースを確保。一日を通して自分の部屋は、その人の活動・休息ペースに合わせて使用できる状態にある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用してきた家具や大切にしているものの設置は、本人やご家族の意向に合わせて行える。また、思い出ある写真や作品を居室に飾るようにしている。	洗面とエアコン、ベッドのみで、クローゼットが備わっていないことが功奏し、チェストや洋タンスの持ち込みがみられます。大半の居室に置き時計やカレンダーがあり、家族や職員の「季節、日、時間を感じてほしい」との願いが伝わります。	(キッチンも含め)高い場所にあるモノについてのリスクを検討して是正することを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・各所の手すり設置がなされている。その人がより自分自身の力で生活できるように生活動線を検討したり、安全に配慮した物の配置方法をとっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200574		
法人名	医療法人社団拓己会		
事業所名	多機能ホームながつる グループホーム(きずな)		
所在地	静岡県浜松市東区長鶴町249		
自己評価作成日	平成29年2月4日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2297200574-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設4年目の本年は、グループホームにおける様々な認知症の方の特性理解と、それに応じた関わり方を検討できるように努めてきました。前年同様に、従来の生活様式や個人の価値観・経験を尊重し、その中から継続して行えることを見出し、支援に繋げていくことを大切にしています。施設行事においては、外出機会の確保のため、外出レクリエーション機会を増やしています。同時に例年行なう年中行事も大切に、利用者職員が共同して準備から実践までの取り組みができるよう努めています。当施設は経営母体が医療機関であるため、利用者様の健康状態維持や変化時の対応がタイムリーに行える体制もあり、最期まで安心した環境で生活頂ける特性も持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長鶴町自治会では会長の尽力で閲覧板に施設広報を挟んだり、また施設担当2名を任命くださって運営推進会議には3名が出席しているほどで、地域と一体となった活動に秀でています。好天には散歩にでて、コンビニエンスストアでの買い物は日常として、職員が本部へ書類を届ける際にも誘い、「外出機会、戸外での散歩を増やす」ことを念頭に置いた支援が根付いています。また「秋の味覚レクリエーション」として秋刀魚を焼いたり、暑くて戸外にできる機会が減る夏には「夜の手持ち花火会」を開いたり、法人では150余の人が集った「お茶会」が催されたりと、「季節を感じてもらいたい」との想いが伝わる企画行事が豊富です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に、法人理念及び自施設理念についての説明機会がある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事参加を得たり、施設行事にも協力を得ている。また、近隣ボランティアの受け入れを行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の場や推進会議を用いて、施設内での認知症を持つ利用者の暮らしぶりを知ってもらったり、介護方法や資源の相談にも気軽に応じられるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では日々の活動報告を写真等を用いて紹介したり、行事参加の場を確保している。また、施設として目指したいこと等を議題として挙げ、それらに対する意見を受けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議を利用して、事業所の実情伝達や助言をうける場をもっている。必要に応じて、管轄の区役所の介護保険課に相談する機会ももっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や自己の振り返り機会の確保、拘束に当たる可能性が考えられるケースについては、職場会議にかけ、代替方法の検討を行っている。玄関施錠は施設の立地状況もあり行っているが、要望に応じて職員と戸外に出られる状況確保はなされている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会を主に学習機会をもち、その上で日常業務においての対応の妥当性を検討している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な支援事業や後見人制度に対しての勉強会実施はできていない。ただし、同一施設内小規模における検討を要す事例を通じた情報は得られる状況に在る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時の契約内容については、契約書及び重要事項説明書の書面を用いて十分説明をし、了承を得ている。契約後の疑問点についても、随時説明をし、理解が得られる状況を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時にご意見の受け付けや対応体制があることを十分に説明している。その上で、家族会実施による意見交換機会の確保や、ご意見箱を設置し、要望・質問にタイムリーに対応するように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議の定期実施にて意見交換や、課題解決に対する検討機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者による個人面接を実施している。また、個人の可能な就労条件に応じた雇用体制をとっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月に1度の勉強会を実施している。また上半期より、介護経験年数が浅い職員に対しての勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の施設間交流は確保されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の介入段階において、不安が最小限にできるよう、サービス導入前に基本情報を収集し、生活上のニーズ把握に努めている。得られた情報は、職員間で事前に周知出来るよう準備している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に、ご家族の抱える介護上の問題や不安を確認し、その緩和や解決が出来るような支援内容検討を行うように努め、必要時に相談しやすい関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階において、ご本人やご家族が今、何を必要としているのかの把握に努めている。また、ご本人の状況に見合った支援方法を随時検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持つ力の活用をし、日常生活場面において「できること」を共に行なうよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者との面会や可能な範囲での家族との外出支援や行事参加を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の、友人や近隣の人などの面会機会を推奨している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、ユニット内の関係構築がなされるよう、必要な場面に職員が介入したり、レクリエーションの場を用いて、周囲への関心が低下しないような関わりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、ご家族に連絡をし、以降の相談にのったり、必要時相談に応じられることを伝え、施設来所できる関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時及び以降の経過に添って生じるニーズ把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にご家族から、今に至るまでの暮らし方や対人関係等を情報収集し、なぜ入居に至ったのかという背景把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化し得る心身の状態を常に意識し、今の生活状態の把握と、定期的なアセスメントを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なサービス担当者会議の実施や、状態変化時の面談を実施し、ケアプランに反映させている。必要に応じて、職場会議の場で事例検討を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過や観察内容、関わりで得た反応は個別記録として残されている。記録を通じた情報共有と得られた情報をもとにケア検討の材料とすることはできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経済状況も含め、必要に応じて利用サービスの見直しや検討をしている。施設内生活方法についての枠は作らないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会機会等を得て、住み慣れた地域との接点の場を継続出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診が受けられる体制がある。また、ご本人の必要に応じた医療や定期検診受診もなされている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、健康チェックが行われ、随時、職場内看護師に相談している。同時にかかりつけ医の看護師とも情報共有をし、医療と連携した対応が受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の連携室との関係をもっている。入院者があれば、病院関係者との連携をとることは可能な状態であるが、この一年は入院対象者はいなかった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り支援の前段階から、ご家族と急変時や終末期支援の意向確認をし、面談の場を設けている。その上で、看取り期のケアプラン作成をし、家族同意を得た上で実践している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や職場会議を用いて、急変時や事故対応の方法を伝達している。また、関連したマニュアル作成をし、個々が必要に応じて自身の知識習得や再確認できる状態にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の施設内防災訓練を実施している。内容は、日中や夜間の設定などとし、様々な形を想定できるよう工夫をしている。また、推進会議でその報告をし、地域消防との協力体制も確認している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の特性に合わせた対応の仕方を考え、集団生活の中でもプライバシーに配慮し、接するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々に介護担当が配置され、担当を中心に個別ニーズの吸い上げ・把握をするよう努めている。本人希望に対しては、応じられる範囲内は限られてしまっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、生活方法や過ごし方の制限をもち、本人のペースでの生活やレク等への参加を促すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力を得ながら、その人らしさや長年のこだわりを継続できる身だしなみを整えられる様に支援している。衣類選択介入時は、ご本人の意向を聞きながら、一緒に行うように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しや、食後の片付けにおいて利用者と共に行なう機会を持っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による食事内容の検討や、摂食状況による食事量検討を行っている。また、その人の状態に応じ、必要な食事や水分の促し方を検討しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の自立度に応じた口腔ケアへの介入方法を検討し、その適正を確認しながら口腔内清潔が保たれるよう支援している。また、必要に応じて歯科往診による指導を受け、それを意識した支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の自立度に応じ、その中でより自然な排泄方法で支援できるよう心掛けている。排泄のパターン把握により失敗頻度を減らしたり、不快感の少ないおむつ使用方法で対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人の排便パターンや習慣を把握し、活動量や水分摂取量を把握と維持に努め、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を自由に選択することは難しい。ただし、状態に応じ入浴の日を替えて対応することは出来ている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と休息バランスを個々に把握し、その人ごとのパターンを保ち、就寝時間も個々に対応している。安心して休める居室環境調整と就寝準備介入を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導を受けながら、薬剤情報を確認のもと、確実な服薬支援や、投薬による変化の観察ができる体制をつくっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付けや洗濯物をたたむ等、生活上における行為参加を促しているが、実際に可能な対象が半数ほどに減っている。個別レク実施は困難なため、全体の反応をみながら楽しめるレクを実施できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回、公園への外出や外食機会を確保している。協力が得られれば、家族との外出機会を確保している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に小遣いは職員がお預かりしているが、希望に応じて出金し、使用できる体制をとっている。また、その出納は記帳し、ご家族に毎月報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信においての制限はしていない。希望があれば電話の介助をしたり、個人で携帯電話の使用も可能としている。手紙のやりとりも、必要な準備を手伝い、郵送物は必ず本人のもとで開封している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃計画に基づき、環境整備を実施している。気候に応じた空調管理をし、生活空間が快適に保たれるよう努めている。また、共有空間には、その季節を感じられる作品を飾りを作成し、掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、その人の席を設けると同時に共有のソファースペースを確保。一日を通して自分の部屋は、その人の活動・休息ペースに合わせて使用できる状態にある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用してきた家具や大切にしているものの設置は、本人やご家族の意向に合わせて行える。また、思い出ある写真や作品を居室に飾りにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・各所の手すり設置がなされている。その人がより自分自身の力で生活できるように生活動線を検討したり、安全に配慮した物の配置方法をとっている。		